

経食道エコー(超音波)検査 説明・同意書

1, 検査の内容・目的および必要性について

この検査は、食道にエコーの管を入れ心臓の裏側、食道から心臓の状態を観察するために行います。心内、とくに左房内の血栓の検索や、胸壁からの心エコーでは評価が不十分な弁膜疾患（僧帽弁逆流の原因、僧帽弁狭窄症、大動脈弁狭窄症、弁の感染症）、胸部大動脈の異常、先天性心疾患の診断、心臓大血管手術の評価、心臓大血管手術中のモニターとして非常に有用です。経食道エコーでしか診断できない場合もあります。

2, 方法

のどにキシロカインという薬のスプレーとシロップで麻酔を行ったあと、横に寝た姿勢で、胃カメラのような形状の管（エコー探触子）を、口から食道と胃に挿入し、心臓や大動脈を観察します。

小児においては、気管内挿管し鎮静下に行うことが一般的です。手術中の使用については全身麻酔下に行います。

3, 危険性・合併症・副作用

頻度は低い（0.08～0.13%程度）ですが、咽喉頭および食道損傷がまれに起こります。その他に起こりうる合併症として今まで報告されたものに、痛み、嘔吐、気管支れん縮、喉頭れん縮、頻脈発作、徐脈性不整脈、低酸素血症、血圧低下、血圧上昇、狭心症発作、喉頭部出血、下咽頭穿孔、舌腫脹、舌下神経麻痺、反回神経麻痺、食道損傷、食道破裂、鎮静下での呼吸抑制、急性大動脈解離発症、エコー探触子を介した感染、死亡（0.01%未満）などがあります（当院ではこれまで死亡例はありません）。その他、予期せぬ合併症も発生する可能性があります。

検査は、医師（循環器内科医、心臓外科医、麻酔科医、小児科医、救急医、集中治療医など病態において適切な医師）が行い、心電図モニターを監視し、救急器具・薬品を用意し、不測の事態に対する緊急処置ができる体制を整えています。検査の合併症により何らかの治療が必要となった場合、治療費は原則として通常の診療と同様に患者様のご負担となりますことを、あらかじめご了承下さい。

以上、私は、患者 _____ 様に上記医療について説明いたしました。

平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

医師 _____ （自筆署名）

（医師からの指示によりご記入ください。）

私は、上記医療の説明を受け、内容を理解いたしましたので同意します。また、上記医療を行う上で必要な処置、および上記医療において予測されない状況が発生した場合には、それに対処するための緊急処置を受けることもあわせて同意します。（同意された場合でもいつでも撤回することができます。）

平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

患者氏名 _____ 印

家族代理署名 _____ 印

経食道エコー(超音波)検査当日について

検査の日時 _____ 月 _____ 日 _____ 時 _____ 分 (入院の方は病棟にお電話します)

当日は、24番生理機能検査室内の心エコー検査室においでください。

1, 準備

- ・脱衣が容易な服装でおいでください。経胸壁心エコーも行うことがありますので、検査時上半身を着替えていただきます。
- ・朝食はいつもの半分程度にして午前9時までに済ませてください。検査は午後になります。朝食後は食事をしないで下さい。少量の飲水はよいですが、検査予定の3時間前からは飲水も控えて下さい。昼食は食べないで下さい。

医師よりの指示

- ・内服薬 全て服用する。 中止する。中止する薬剤 _____
- ・検査の目的 _____

2, 方法

キシロカインという薬のスプレーとシロップでのどに麻酔をしたあと、横向きに寝た姿勢で、胃カメラのような形状の管(エコー探触子)を口から食道と胃に挿入し、心臓や大動脈を観察します。検査の前にははずせる入れ歯、差し歯ははずしておいて下さい。検査は左側臥位で行いますが、肩の力を抜き、頸を曲げてお腹を見るような姿勢をとります。

検査中唾液は飲み込まないで流れるままにして下さい。飲み込むとむせてしまいます。

検査中話すことはできませんが、伝えたいことがあれば手をあげて知らせて下さい。

検査は、医師が心電図モニターを監視しながら行います。

3, 検査後

検査後しばらく(1時間程度)は、のどの麻酔が効いていますので、飲んだり食べたりしますと、食物や水分が気管に入る恐れがあり危険です。検査後1時間は飲んだり食べたりしないで下さい。1時間経過後、少量の水を飲んでむせたりしないことを確認後、飲んだり食べたりするようにして下さい。

注意：以下のご病気のある方は原則的に経食道エコー検査は受けられません

- 1) 食道の病気(食道狭窄、食道静脈瘤、食道腫瘍、食道憩室、食道裂孔ヘルニア)
- 2) 胃・食道手術後
- 3) 頸椎の可動性低下
- 4) 頸部への放射線治療後
- 5) コントロールされていない重症高血圧
- 6) 脳出血、脳動脈瘤、急性腹部大動脈解離
- 7) 重度呼吸機能障害、極度に全身状態の悪い場合
- 8) 局所麻酔薬(キシロカイン)過敏症